

1. 成果名 ナシ「幸水」の開花を早める休眠打破剤（シアナミド液剤）の処理適期

2. 成果の内容

休眠打破剤の自発休眠覚醒および開花促進効果を明らかにするため、露地栽培の「幸水」に DVI 値が 0.5、1.0、1.5、2.0 になった時点で休眠打破剤（シアナミド剤 10 倍液）を散布し、短果枝と長果枝（腋花芽）に分けて開花時期を調査した。その結果、休眠打破剤処理した露地幸水樹での開花は、短果枝では DVI 値=1.0 時点処理で最も早くなった（図 1）。長果枝（腋花芽）では、DVI 値=1.0 及び 1.5 時点処理で開花が最も早くなった（図 2）。処理樹の達観での開花調査では、DVI 値=1.0 及び 1.5 時点の処理が、無処理樹と比べ、満開日で 3 日程度開花が促進された。

このことから、休眠打破剤の処理は、DVI 値=1.0～1.5 時点での散布が、生育（開花）促進に効果的であることが認められた。加温ハウス栽培開始前の散布処理で開花促進が図られ、加温温度下げ（省エネ対策）に伴う開花遅れの回避対策のひとつとして活用できることが示唆された。

3. 具体的データ

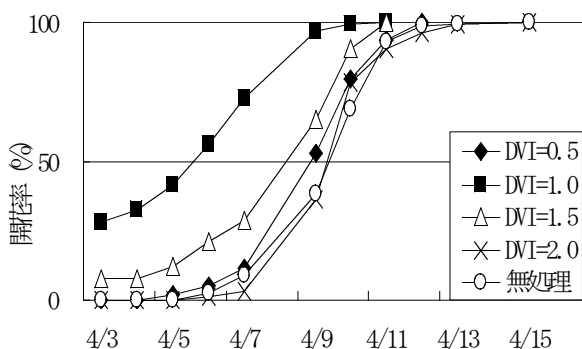


図 3 休眠打破剤散布時期と露地幸水の短果枝の開花率の違い

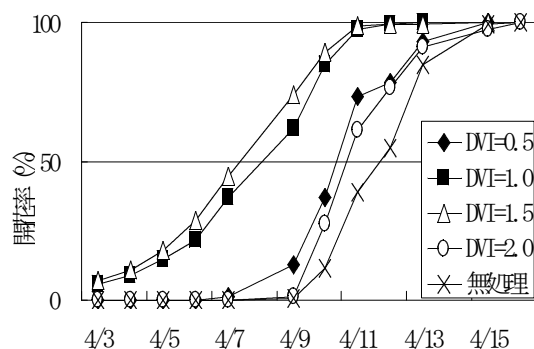


図 4 休眠打破剤散布時期と露地幸水の長果枝の開花率の違い

連絡先：三重県農業研究所 園芸研究課
 大野秀一、西川 豊、田口裕美
 TEL：0598-42-6358 FAX：42-1644